

2024年3月期 第3四半期決算説明会（アナリストミーティング） 主な質疑応答

日時：2024年2月7日（水）10時00分～11時10分

形態：電話会議

当社登壇者：取締役上席執行役員 鈴木 健二

広報IR部長 宮腰 保志

【加工食品事業】

《家庭用調理品》

Q. 第4四半期単独の売上高は、現時点で計画する伸び率を上回る可能性はありますか。

A. 第3四半期単独の売上高の伸び率は14%で、単価がプラス6%、数量がプラス8%の内訳となります。第4四半期単独の売上高の計画は8%の伸び率で、単価がプラス1%、数量がプラス7%の内訳となっており、数量ベースでは引き続き第4四半期も主力商品の販売を拡大していきます。

《業務用調理品》

Q. アイテム整理によって収益性が上がる一方で減収となりましたが、アイテム整理による減収額と今後の方向性に関してご教示ください。

A. 減収額はお伝えできませんが、アイテム整理の対象は惣菜の主にチキン加工品となります。海外OEM品の中から収益性の低いアイテムを減らし、当社の自営工場で製造する高付加価値品を増やす方向性で取り組みを進めています。ただし収益性の低いアイテムでも、販売数量を大きく確保できるアイテムは一部継続して販売を続けることで、高付加価値品を伸ばしながら数量も回復させ、収益性が改善される状態を目指します。

《海外事業》

Q. 営業利益の増減要因で「海外関係会社の業績影響額」（決算説明会資料P.10）が第4四半期で4億円増益の計画ですが、特に北米事業の内訳をご教示ください。

A. プラス1億円程度がアメリカ全体での効果になり、イノバジアン・クイジーン社で前期比マイナス1億円、ニチレイサクラメントフーズ社で前期比プラス2億円となります。

【低温物流事業】

《在庫水準の低下》

Q. 業界全体で生じている現象ですが、この詳細と今後の見通しに関してご教示ください。

A. これまで発生してきた荷動き鈍化の影響に加え、在庫の減少傾向には2つの側面があり、①荷主様側の在庫コントロールによるもの、②中東情勢の悪化を受けた輸入貨物の入船遅れによるものに大別できます。なお当社では欧州からの輸入貨物の遅れの影響が今後も続く見通しを立てています。以前より、第4四半期は年末商材の出庫によって2月まで在庫水準が低い状態が続きますが、今回は輸入貨物の遅れなども重なったことで国内事業の通期計画を下方修正しました。一方、欧州事業では入船遅れによる影響は現時点では見込んでおりません。

《トラックドライバー2024年問題》

Q. 既に成約案件が出てきている点に関し、定量効果、並びに来期の業績への影響についてご教示ください。

A. 2024年問題だけに特化した定量効果の把握は難しいためご容赦ください。定性的な説明になりますが、例えば、保管サービスのみで契約していたお客様に対して輸配送サービスを提案したり、ベンダー様やメーカー様から物流業務の効率化に関する相談が増加したりといったことで成約案件が増えています。更には、2024年問題を契機に共同配送に関する相談も増加すると見込まれ、当社としては今後も伸ばしていきたい考えです。来期からはこうした案件が収益として発現すると想定しています。

【ROIC経営】

Q. ROIC指標を取り入れたことで、経営にどのように活かされていますか。

A. 例えば、加工食品事業では、使用資本回転率が低下傾向にありましたが、ROICを取り入れたことで、在庫水準に対する意識が高まっています。水産事業で行っている低収益商材の大幅削減もその一環です。また低温物流事業では、投下資本の増加率よりも売上高並びにNOPATの増加率の方が高く、安定して利益成長が図れていることがROICの分解によって判断できるようになっています。

一方で、今後改善すべき課題もあります。水産事業では利益率の向上と更なる在庫削減が課題であり、畜産事業では使用資本回転率は高い一方で利益率が1%程度に留まっていることが挙げられます。水産事業も畜産事業も構造改革の途上にあり、特に畜産事業は加工食品事業とのシナジーが見込めるチキンの取り扱いを高めていく必要があります。グループ全体の視点からは、ROICを用いることで、事業ポートフォリオの検討を更に踏み込んで行うことも今後の課題だと考えています。

以 上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。